

「結果」が出ないなら、努力したことは無駄なのか？

わたしの趣味の1つに盆栽があります。盆栽といっても、サザエさんに出てくる波平さんが育てているような大きくて立派なものではなく、季節によって花が咲いたり、実がなったり紅葉したりするのを楽しむための手のひらに載るような小さな盆栽です。今は冬なのでほとんどが枯れ木のように葉が落ちていますが、みかんの盆栽は緑の葉っぱの間で小さなみかんの実が少しずつ色づいてきていて、鮮やかな黄色になった実を眺める日が来るのを心待ちにしていました。ところが・・・



ある日の夕方、寒さよけのカバーをかけようとしながらそのみかんの盆栽を見ると、色づきかけたみかんの実が少なくなっています。しかも、一番大きく一番早く色づいていた実がないのです。「犯人」は小鳥でした。盆栽は外で育てているので、みかんの実が色づいたのをみつけた鳥がついばんで、下に落としてしまったのです。



本当にショックでしたが、とりあえず残った実が鳥に食べられないようにと盆栽を部屋の中に入れてもう一度じっくりと眺めると、6個あった実は、少し病気になるかけの実と枝の下のほうに隠れていた3つしか残っていませんでした。それだけでもショックなのに、そこへ通りがかった家族の言葉が心に突き刺さりました。

「せっかく育てても、色づく前に鳥に食べられたんじゃ、意味無かったね。」

みかんの盆栽は、去年は1つしか実がならなかったものを1年かけて肥料を与え、余計な枝を剪定し、針金をかけて形を整え、3cmもある毛虫をやっつけ、病気にならないように、虫にやられないようにこまめに消毒し、夏は暑さにやられないように、冬は寒さにやられないように水をあげたり、夜はカバーをかけたりしてきました。お世話するときに小さな



つぼみが落ちてしまったこともあったので、花が咲いてからも実がついてからも、壊れ物を扱うように他の盆栽よりも手をかけ、やさしく扱ってきました。そのかいあって今年は順調に育ち、あと1週間もすれば実が黄色になる！！1年がんばった成果が出るまであと少し！！というときに、鳥にやられて実が落ちてしまったので、周りの人から見たら、1年の苦勞を知らない人から見たら、やってきたことは無駄だったとか、やり方が悪かったのではないかと思われても仕方がないのかもしれない。

ではわたしがこの1年間、みかんの盆栽にしてきたことは無駄だったのでしょうか？

わたしはそうは思いません。



みかんの実・・・というのは、誰の目から見てもわかる「結果」ですが、1年間育ててきたわたしにとっては、努力の結果は「実」だけではありません。この1年で、目には見えない地面の下の根は強く成長し、幹も太くなりました。だからこそ、かわいいつぼみをつけ、白い小さな花を咲かせ、去年よりも多くの実を实らせることができたのです。まめに消毒をし、毛虫もピンセットで取ることで、葉っぱも青々としたまま残り、余計な枝を剪定し針金で形を整えることで、姿かたちもよくなったのです。

そして何よりも、1年間手をかけて成長を見守り、新しい芽が出ては感動し、つぼみを数えて楽しみ、咲いた花を眺めて喜び、実を見て達成感を感じ、毎日色づくのを見ていたわくわく感、直接育てた人、直接手をかけたわた

むだ
しにしかわからないかけがえのないものです。つまり、たとえ「色づいた黄色のみかんの実」という「結果」は出なかったとしても、目の前にある強く立派に育ったみかんの盆栽そのものがダメになったわけでもないし、努力したことで私が感じた喜びや楽しみが消えてなくなるわけでもありません。それどころか「残っている実を守ろう！」「来年こそはがんばろう！」と次につながる意欲や、未来につながっていくのです。

さて、4月から始まった新しい学年も残り少なくなってきました。4月と比べると、多くの橘高生がひとまわりもふたまわりも成長し、たのもしくなったことを感じます。特に3年生は、見ているこちらがうれしくなるほど立派になりましたね。ただ3年生はあと数日、1・2年生は1ヶ月もしないうちに学年末考査があり、これをクリアしないと卒業や進級はできません。つまり1年間努力したことの「結果」が出ないことになりますから、がんばって欲しいと思っています。



その一方で、「もうどうせだめだから」「いまさら努力したって無駄だ」「やってもだめだと思っから、努力したくない」という声を聞くこともあります。でもまだ「結果」が出る前に努力をするのをやめてしまったら、可能性がゼロに近くなってしまいます。進級卒業の可能性が残っているうちは、やれることをやりましょう。その一方で努力しても「結果」が出ないで進路変更を考えなくてはいけなくなる人も出てきますが、もしあなたがここで必死に努力したとするならば、たとえ今回「結果」が出なくても、その努力する力はいつか花を咲かせ、あなたが思っている以上に大きな実を实らせるからです。



わたしは1年間通して、進級卒業をめざしてがんばろう、困ったときには一緒にどうしたらいいか考えよう、つらいときには助けを求めて欲しいと話してきました。

そして実際に心や体が弱っているときには手当てをし、支えが必要なときには必要な支えや人などを探してきましたが、「結果」が出ないでこの橘高校を去っていく人もたくさん見送ってきています。それは知らない人から見たら「努力しても手をかけても、進級卒業できないのでは意味が無い」と思われるかもしれませんが、ではわたしがこの1年間、保健室で橘高生にしてきたことは無駄だったのでしょうか？

わたしはそうは思いません。



たとえ今、わたしの目の前で「結果」が出ても出なくても、この橘高校で友だちや先生たちから大切にされたこと、教えてもらったことは、橘高校に入学したひとりひとりの根っこを育て、幹を太らせ、いつかどこかで実を实らせる力になっているはずです。

ただ、まだ進級卒業の可能性のある今は、本気になってがんばってください。無理だ、いやだ、がんばれないと思っても、それでもがんばって欲しいのです。がんばろうと思っているけどやる気が出ない。どうやってがんばればいいのかわからない人は保健室に来てくださいね。最後まであなたを応援しています。

